

1. 理事長からのメッセージ
2. 理事会からのお知らせ（総務）
3. トピックス
4. 各委員会からのお知らせ
 - 1) 学術推進委員会
 - 2) 編集委員会
 - 3) 広報・渉外委員会
 - 4) 国際交流委員会
5. 学術集会
 - 1) 第 11 回学術集会の報告
 - 2) 第 12 回学術集会のご案内

広辞苑では「謙虚」は、「ひかえめですなوناこと。謙遜（控えめな態度で振る舞うこと）」とされています。患者さんや同僚等との対応において、社会通念としての「謙虚」な姿勢が必要であることは今更言うまでもありません。看護の研究者、教育者、実践者として「謙虚」な姿勢とは、「今の、自分の能力の限界・範囲を客

観的に判断し、能力の範囲内のことは自律して誠実に実行し、限界を超えたことは患者さんたちの安心・安全の確保のために行わないこと」だと思い、院生や自分自身にも言い聞かせてきました。看護は科学（サイエンス）です（EBN：evidence-based nursing）。エビデンスに基づいた実践が求められる看護において、努力を積み重ね、自分の能力の限界・範囲をさらに広げ、患者さん・社会が満足する看護（看護の最終アウトカムだと思っています）を提供できるようにすることが、個人・組織の成長につながると思ってきました。

論語に「不知為不知、是知也」(知らないことは知らないこととする。それが知ることである)とあるように、自分の限界を知って、己の知のありようを知る謙虚な姿勢が、己の知を高めていくことになると思います。

大学院教育を受けたり、職場等で社会的地位を得たりすると、己の知のありようとは関係なく「えらくなった」ように錯覚してしまうのが人間の性ですし、巨大化した組織は「組織としての謙虚さ」を忘れ「上から目線的な」態度・姿勢になりがちです。

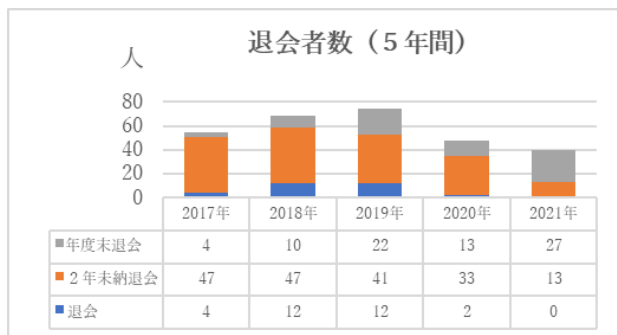
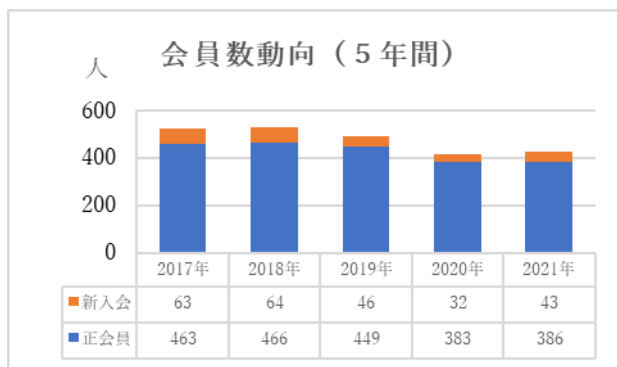
平成4年の人確法の制定以降、看護系大学や学会などがいっしに増加しました。看護大学や学会などの「知」のありようを社会は厳しく批判的にみております。学会、会員が、「己の知のありようを知り」、常に努力を積み重ねる謙虚な姿勢が、「放射線看護学」の進化・発展につながると思っております。

本年度は、本学会の役員選挙の年です。会員のみなさまのご支援・ご協力をいただき、6年間の任期を無事、務めさせていただくことができました。このニュースレターでのご挨拶が、理事長としての最後のご挨拶となりますので、「サイエンス」とはちょっと異質なメッセージをご挨拶に代えて書かせていただきました。

2. 理事会からのお知らせ (総務)

1) 会員動向

2022年3月31日時点の正会員数は386名(理事10名、監事2名含む)、学生会員2名、連携会員4名、会員総数は394名です。賛助会員は2社です。2021年度新入会員数が43名ですが、2021年度退会者数も40名です。過去5年間の会員数と退会者数の動向は図を参照してください。会費納入状況では、2021年度会費納入率が88%となっております。会員の皆様には、引き続き会員増へのご協力をよろしくお願いいたします。



2) 定時社員総会報告

2022年度の定時社員総会が無事終了しました。

日時：2022年6月11日(土) 13:30~15:05

場所：遠隔会議システム Zoom

2022年6月1日時点の正会員数が372人、委任状の提出者が112人、会場出席者(役員を含む)16人、合計128人であり、正会員の5分の1(75人)以上の出席により総会は成立しました。草間理事長が議長として議事を進行しま

した。

(1) 2021年度庶務報告 (木立総務担当理事)

(2) 2021年度事業報告

①日本放射線看護学会第10回学術集会(野戸学術集会長)

②編集委員会 (吉田編集担当理事)

③学術推進委員会 (野戸学術推進担当理事)

④国際交流委員会 (小西国際交流担当理事)

⑤広報・渉外委員会 (作田広報・渉外担当理事)

(3) 2021年度収支決算報告 (浦田会計担当理事)

(4) 2021年度監査報告 (菊地監査)

以上、1~4についてすべて承認されました。

(5) 2022年度事業計画案

事業計画案の説明に先立ち、理事長から第4期理事会の継続的な運営のために、3名の理事が退任し顧問(2022年度限り)として学会運営にかかわることについて提案があり、異議なく承認されました。

①学術集会の開催

②放射線診療従事者の被ばく線量の一元管理体制の構築

③編集委員会：委員長は草間理事長が兼任すること、年2回発行予定であること、優秀論文賞の選考と表彰を行うこと

④学術推進委員会：委員長は西沢理事とすること、放射線看護専門看護師教育課程修了生の活動支援を行っていくこと

⑤国際交流委員会：委員長は小西理事が継続し、日本から放射線防護や放射線看護の活動モデルを世界に発信していくこと、ICRP-2023でのサテライト企画の実現に向けて検討していくこと

⑥広報・渉外委員会：委員長は作田理事が継続し、広報誌の発刊、ホームページの管理、メーリングリストの管理等のほか、日本放射線技術学会との連携および共同研究の推

進などを行うこと

2022 年度事業計画案についてすべて異議なく承認されました。

(6) 2022 年度収支予算案(浦田会計担当理事)

会費の 90%納入率、学術集会は対面開催として予算化し、経常費用計 6,831,000 円となることが報告され、異議なく承認されました。

(7) 法人第 4 期理事・監事候補者選出選挙について

3 名の選挙管理委員と選挙スケジュールについて報告され、承認されました。

(8) 一般社団法人第 12 回学術集会について

2023 年度開催の一般社団法人日本放射線看護学会第 12 回学術集会会長は、吉田理事(長崎大学)が承諾したことが報告され、承認されました。

(9) その他

一般社団法人第 11 回学術集会について、学術集会長の桜井理事からお願いと経過の報告がありました。

第 12 回学術集会について、学術集会長の吉田理事から、会期、会場、テーマについて報告がありました。

3) 今後の主な予定

2022 年 9 月…第 4 期理事候補者選挙公示

11 月…第 4 期理事候補者選挙(Web)

2023 年 6 月 17 日(土) 予定…2023 年度定時社員総会、第 4 期理事の承認

3. トピックス

看護師が知っておくべき放射線診療事情

湘南鎌倉総合病院 放射線科
看護師・診療放射線技師 芦刈久美

現在私は、神奈川県内の総合病院で外来看護師と放射線科診療放射線技師として業務按分を 50%ずつで登録して勤務しています。看護師勤務日は主に I V R 室での治療介助、核医学検査室の核種投与、CT/MRI 造影検査の立会いなどを行なっています。放射線技師勤務の日は主に血管造影室業務を行なっています。

今回「看護師が知っておくべき放射線診療事情」というテーマを頂きました。

現在の医療の中で放射線検査はなくてはならないものになっています。放射線は画像診断や治療中の画像ガイド、放射線治療などさまざまな場面で役立っていますが、被曝という悪いイメージを持つ人が多いです。

最も多く使用される X 線撮影ですが、一般撮影、CT 撮影などで患者を透過した X 線を画像化しています。我が国の人口当たりの CT 装置保有台数は世界第一位と多く、検査件数も世界最多レベルで、医療被曝の半分は CT 撮影によるものです。日本の平均年間医療被曝線量は約 3.9mSv と世界でもトップクラスです。

CT 検査は空間分解能に優れ、臓器や血管などの状態が比較的誰が見てもわかりやすく表示されます。短時間に広範囲撮影も可能で、全身のスクリーニングに適しています。撮影装置や画像処理技術の向上により、2次元だった画像から立体表示する 3次元画像が当たり前になっています。病変を多方向から見ることで、診断や治療を計画する医師も説明を受ける患者も理解しやすくなっています。放射線治療でも正確な位置情報から、病巣に照射したい放射線量と照射したくない正常組織の許容線量から治療計画を立てることができるようになり、照射方法も定位放射線照射や強度変調照射により病巣以外の放射線量を極力抑制し、副障害を低減しています。同一部位を連続撮影して呼吸による腫瘍の動きを計算し、呼吸同期照射も可能となりました。画像解析技術の進化もあつ

て形態撮影から機能撮影を行えるようになりました。脳血管の血流を解析し、急性期脳梗塞の治療において予後を推測して治療方法を決定しています。機能撮影の被曝は確かに多いですが、低線量でより良い画質が得られるよう努力もしています。画像診断では放射線障害が問題となる線量ではなく、適切な治療に繋がるメリットがあることも患者さんに伝えてください。

放射線を利用した治療には放射性同位元素を内服または静脈内投与する方法（以下、放射線内用療法と示す）もあります。近年、放射線内用療法ができる施設も増えてきました。I-131NaI（ β 線、 γ 線放出）ヨウ素内用療法による甲状腺アブレーション、Ra-223 RaCl₂（ α 線と僅かに β 線、 γ 線放出）を用いた骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌の治療、Y-90（ β 線放出）を用いた放射性免疫療法、Lu71（ β 線、 γ 線放出）を用いた神経内分泌腫瘍の内用療法、I131-MIBG（ β 線、 γ 線放出）による褐色細胞腫・パラングリオーマの治療などがあります。これらの放射線核種は特定の組織に取り込まれるよう標識されており、 α 線や β 線という透過性が低く集積した組織のみ破壊する放射線を放出します。しかし、体液や尿中に核種が含まれるため、一定期間は排泄物、血液、体液の取り扱いに注意が必要です。「座位で排尿し水を2回流す」、「体液や血液が垂れた場合拭き取った紙はトイレに流す」など患者様にも説明します。 γ 線も放出する核種は周囲への被曝があり、線量管理された病室に入院が必要な場合もあります。半減期は核種により異なり、一定期間人混みに出ない、同居家族との距離を保つなど行動制限があります。入院患者に放射性医薬品を投与したら、排泄物や血液体液の付着したおむつや抜去したデバイスなどは指示された期間は放射性廃棄物として管理して廃棄する必要があります。放射線医薬品を使用した

検査も多く行われている一方で、それに関わっていない看護師や医師は放射性医薬品について知る機会がほとんどありません。患者教育する内容も看護師がケアする中でも注意事項を理解する必要があります。疑問点があれば放射線技師に尋ねてください。

医療従事者はどの検査でも放射線がいつどこから発生しているか考えて行動しましょう。放射線機器は撮影時・透視時のみ放射線を出しますが、放射性核種は遮蔽容器に入っていない時は常に周囲に放射線を出しています。可能限り発生時は部屋に入らない・線源に近づかない、プロテクターや防護板を適切に使用し、適切に防護します。事前に患者への説明や準備を行い、患者や線源に近づく時間を低減します。

放射線科での造影剤を含め薬剤投与の機会も増えてきました。造影剤は高速注入を行うため、注入に適した血管を選択して確保し、生食のテスト注入を行って確実に造影剤が注入出来るか見極める必要があります。造影剤や放射性同位元素の注入は血管外漏出してしまうと必要量の薬剤が投与出来ず、検査結果に影響が出ます。適切な血管確保が出来る技術も求められています。

新しい放射線検査や治療に関して学ぶ機会を持ち、放射線装置や放射性同位元素が持つ特性を正しく理解して、被曝防護の3原則を遵守しつつ、放射線を正しく恐れることが大切と考えます。

4. 各委員会からのお知らせ

1) 学術推進委員会

《委員会概要》

学術推進委員会は一般社団法人日本放射線看護学会の学術推進を目的とした活動を行っています。具体的には関連学会及び団体との連携強化に関する活動、ならびに学会および学術集

会の活性化・学術推進活動を行っています。

《委員》

委員長：西沢義子

委員：野戸結花、太田勝正、小山内暢、
堀田昇吾

《活動報告》

2022年度は下記の活動を行っています。

(1)学会および学術集会の活性化・学術推進活動

第11回学術集会において、下記の2つの交流集会を開催しました。詳細は次回のニュースレターで報告をします。

交流集会4：放射線看護専門看護師が担う役割
とはー「放射線看護キャリア開発グループ」
第2回交流集会ー

日時：9月18日（日）9:00-10:00

概要：2022年2月に日本看護協会より専門看護師の新たな分野として「放射線看護」が分野特定されました。放射線看護専門看護師の教育課程の修了生等で構成する「放射線看護キャリア開発グループ」では、放射線看護の専門性の構築や実践能力の向上を目的に活動を行っています。本交流集会では、修了生の活動内容を紹介し、参加された方々とのディスカッションを通し、放射線看護専門看護師が担う専門性と活動について話し合いました。

交流集会5：放射線看護モデルシラバスの活用
に向けてーモデル授業その3 放射線の健康
影響ー

日時：9月18日（日）10:10-11:10

概要：2019年に公開した放射線看護モデルシラバス（1単位版、2コマ版）の活用を促進する目的で、昨年に引き続き、モデル授業として「放射線の健康影響」をご紹介しました。参加された方々とのディスカッションを通し、効果的な放射線看護教育について共有することができました。

(2)「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」普及のための調査

ガイドライン普及のための諸活動を行います。

(3)放射線看護専門看護師の活動支援

放射線看護高度看護実践者を教育する教育課程（大学院）の修了生のネットワークとして、放射線看護キャリア開発グループを設立し、その活動を支援しています。月1回程度のオンライン会議を開催し、積極的な情報交換を行っています。また、上記交流集会4は、この活動支援の一部です。

2) 編集委員会

《委員会概要》

編集委員会は、学会誌の編集と発行を行い、主に学会員皆様の論文投稿から論文掲載までの期間に関わります。また、この一連の作業が円滑に進むように編集システムの環境を整えています。

《委員》

委員長（理事長兼任）：草間朋子

委員：大石景子、北宮千秋、佐藤美佳、

沼口香織、堀裕子、三森寧子、吉田浩二

《活動報告》

学術誌第10巻1号を6月に発刊することが出来ました。現在は第10巻2号（2022年12月発刊予定）の編集作業に取り組んでいます。現在は、随時投稿から随時掲載までの流れが定着し、約6ヵ月でJ-stageに早期公開されています。また、毎年優秀論文賞を発表し、学術集会にて優秀論文賞受賞者の表彰式と講演会を行っています。

2021年度優秀論文賞の受賞者と論文タイトルおよび概要は次の通りです。

受賞者：岩下恵子様（大分県立看護科学大学大学院看護学研究科博士課程健康科学専攻）

論文タイトル：がん放射線療法看護認定看護師

の在籍する医療機関における放射線皮膚炎の発生およびケアに関する実態調査

論文掲載情報：原著論文 日本放射線看護学会誌. 9(1)：3-13. 2021.

http://www.rnsj.jp/web/journal/0901/pdf/9-1_3.pdf

論文概要：放射線治療の有害事象の1つである放射線皮膚炎へのケアに着目し、がん放射線療法看護認定看護師が在籍する223施設（有効回答106施設）に対して、皮膚炎の発生頻度やケアの現状について質問紙調査を行い、皮膚炎の発生および重症度の現状やそのケアについての課題を明らかにした。

編集委員会は、皆様の研究成果や情報、放射線看護の実践を一早く発信し、社会に貢献できる学会誌を目指していきます。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

3) 広報・渉外委員会

《委員会概要》

広報・渉外委員会は、日本放射線看護学会の活動を会員の皆様や社会にお知らせし、関連する様々な学術団体等と連携・協働をはかる活動を行っております。

《委員》

委員長：作田裕美

副委員長：桜井礼子

委員：堀田昇吾、新井龍、上野寿子

《活動報告》

2022年度は下記の活動を行っております。

(1) 広報誌（ニュースレター）の発行（年2回発行）

9月の本号と2023年3月に発行する予定です。

(2) 学会ホームページの管理・更新

日本語版ならびに英語版のHP管理・更新を行っております。HPを活用し、学会内外から

の情報をタイムリーに発信するよう努めております。

(3) 日本放射線技術学会との協定にそった学術協力の推進

①学術集会企画

第11回学術集会において、日本放射線技術学会との共同企画を開催いたします。

日時：9月17日（土）14：10～15：10

テーマ：放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の方向性

－今後のあり方・やり方－

登壇者（敬称略）：

【公益社団法人日本放射線技術学会】

九州大学大学院医学研究院保健学部門

医用量子線科学分野 教授 藤淵 俊王

東京大学医学部附属病院 放射線部副部長/

診療放射線技師長 岩永 秀幸

【一般社団法人日本放射線看護学会】

東京医療保健大学 立川看護学部 看護学科

講師 堀田 昇吾

大阪公立大学大学院看護学研究科

教授 作田裕美

②共同研究

本学会と日本放射線技術学会の会員に貢献する共同研究を進めています。2022年度は臨床現場における放射線業務従事者に対する放射線防護教育について調査・報告しております。

4) 国際交流委員会

《概要》

委員会は2015年に発足し、放射線看護学に関わる国内外の動向把握と学会員への情報提供、国内外の関連学術団体との連絡・協力、本学会活動の国際的な情報発信の支援等の活動を行っています。

《委員》

委員長：小西恵美子 副委員長：八代利香

委員：後藤あや、生田優子、加藤知子、

山口拓允

《活動報告》

(1) ICRP-2023 国際シンポジウムのご案内

第7回 国際放射線防護委員会 国際シンポジウム (ICRP-2023 国際シンポジウム) が 2023 年 11 月東京お台場 (港区) で開催されます。ICRP 国際シンポジウムは、2 年に 1 度、世界各地で開催されており、日本での開催は初めてとなります。

国際シンポジウムと同時に、放射線関係のさまざまな学会等によりサテライトイベントが開催されます。本学会では、ICRP-2023 国際シンポジウムのご案内をいただいた直後から、国際交流委員会において、本学会としての参加の是非、参加方法などの議論を重ねてきました。その結果、2011 年の学会設立以降、学会が取り組み、実現してきた多くの成果を国際的に情報発信するとともに、「放射線防護における看護の役割」についての情報交流の重要な場であると判断し、①サテライトイベントに参加する (web 開催) こと、②本学会のサテライトイベントのテーマを「放射線防護における看護の役割」とすること、③4 つのサブテーマ (放射線看護教育、F1 事故での看護職の活動、看護職の職業被ばくに対する防護方策、女性の線量限度) とすることを国際交流委員会として決定し、9 月の理事会に提案し承認されました。

ICRP (国際放射線防護委員会) は、放射線・原子力利用における放射線防護・安全の規範となる枠組みや具体的な方策などを検討し、勧告、報告として世界に発信しています。放射線看護、本学会にとって大変重要な国際的な委員会であり、ICRP-2023 では、次の主勧告 (最新の主要な勧告は 2007 年) に向けての議論が開始されると伺っており、本学会としても注目しています。ICRP-2023 国際シンポジウム (個人登録が必要) 及び本学会主催のサテライトイベント

(参加費無料) に多くの会員のみなさまにご参加いただき国際的な意見交換の場として活用していただきたいと思います。

国際交流委員会では、魅力的で有意義なサテライトイベントとなるよう企画・立案してまいります。

(2) 放射線防護法令における女性の線量限度の継続について

2021 年 4 月から RI 規制法や電離則などの放射線防護関連法令が改正・施行されました。今回の改正で水晶体の線量限度が変更になったことが大きな話題となり、本学会でも、「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン 最終版」を作成し、すでに HP 上で公開されています。

日本の放射線防護関係法令の改正にあたっては、放射線審議会において、「ICRP 勧告を尊重する」ことを基本的な方針として職業被ばくに対する線量限度などが設定されています。ICRP2007 年勧告では、職業被ばくに係る線量限度について、1990 年勧告と同様、両性を区別せず、定められた 5 年間の平均で年間 20mSv (5 年で 100mSv) の実効線量として表されるべきであり、かつどの 1 年間においても実効線量は 50mS を超えるべきではないとされています。

しかし、我が国は、母性保護 (特に胎児の保護) を重視した視点から、生殖可能年齢にある女性の放射線作業員の線量限度を 3 ヶ月間で 5 ミリシーベルト (この値は実効線量限度 5 年間に 100 ミリシーベルトを 3 か月あたりに分割した値) と日本独自の女性の線量限度として設定しています。

ICRP2007 勧告後の我が国の 2021 年の法改正にあたって、現行法令の限度である生殖可能年齢にある女性の放射線作業員の線量限度 (3 ヶ月間で 5 ミリシーベルト) を継続し、採択す

るかどうかの議論が放射線審議会で行なわれました。

本学会は、看護職の視点に立ち、母性保護(特に胎児の保護)を重視し、看護職が安心して放射線作業に従事していくためには、女性の限度(公衆の一員としての胎児を防護することに配慮した限度)が必要であると考え、看護の職能団体と協力して実施した約3000人の看護職を対象にしたアンケート調査、および女性が自らの妊娠に気づく時期に関する質問紙調査の結果をエビデンスとして放射線審議会に提出し、「生殖可能年齢の女性の限度」の採択を強く要望し、日本独自の限度を継続することができました。被ばくの実態から見ても、女性の限度の設定が女性の就労を制限することにつながらないと思っています。法令改正にあたって女性の限度を継続することができた経緯を、会員のみなさまにご理解いただければ幸いです。本学会としては、今後のICRP、放射線審議会の動向をしっかり注視していきたいと思えます。今回の法改正を通して、政策等の実現にあたってはエビデンスを提示していくことの重要性を改めて認識し、エビデンスを「つくる」ことで貢献できたことを嬉しく思っております。

5. 学術集会

1) 日本放射線看護学会第11回学術集会 開催報告

日本放射線看護学会第11回学術集会 会長
東京医療保健大学 立川看護学部
教授 桜井礼子

第11回学術集会は、「Client-Oriented Radiological Nursing ～放射線看護が挑むイノベーション～」をテーマとして、2022年9月

17日(土)、18日(日)にリアルタイム配信、10月16日まではオンデマンド配信として開催をしております。すでに、9月17日、18日の2日間、立川市のたましんRISURUホールを拠点に、リアルタイム配信と対面で市民公開講座を開催いたしました。9月18日の時点で、253名の方々に参加登録をいただきました。多くの皆様のご参加いただきましたこと、また学術集会の運営にご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

さて、本学術集会は、放射線を取り巻く環境の変化をみすえ、時代・社会のニーズにしっかり応えられる、対象者(Client:患者・家族、住民)に寄り添った放射線看護を目指し、学会員の皆様と共に考える場となる学術集会にしたいとの思いから、テーマにそって様々な企画を準備いたしました。

主なプログラムは、「Client-Oriented」の視点から、基調講演では細田満和子様から『変革し続ける医療におけるチーム医療』について、特別講演では『思慮深いまなざしをはぐくむために～放射線・原子力利用と看護職への期待～』について、講師の神津かな様より、体験を交えたご講演をいただきました。教育講演は、『がん医療における意思決定支援』、『最先端の核医学治療』、『現場の看護職に役立つ最新のケアーがん医療における放射線治療、IVRと看護ー』についてご講演をいただきました。パネルディスカッションは、『科学とこころの架け橋となる看護職』として、5名のパネリストの方々に、専門家の立場から、またこれまでの看護実践について、放射線だけでなく、COVID-19に対応した経験などもお話いただきました。リスクコミュニケーションのあり方など、患者さんや住民の方々と対峙していくスキルや看護職の役割について考える機会になったのではないかと思います。また、シンポジウムは、『看護職にかかわる放射線防護の“今”と“これから”』とし、4名の

シンポジストの方々から、学会の取り組みや日々実践の中で行っている安全に関する方策について具体的なお話いただきました。看護職自らが放射線防護・安全について考える機会になったのではと感じております。

また、一般演題は25題、交流集会は6演題の応募があり、これまで会員の皆様や本学会が取り組んできた放射線看護についてご発表いただきました。第11回学術集会は、オンラインでの開催となりましたが、少しでも参加者の皆様に対面での開催と同様に、参加者同士の意見交換をおこなっていただきたいと考え、2日目に意見交換会を開催いたしました。運営方法に課題はありましたが、好評との声もいただいております。新しい企画にチャレンジした甲斐があったと考えています。学術集会で多くの研究成果や実践活動について、情報を共有することができたのではと考えております。編集委員会企画の優秀論文賞受賞講演と表彰式もありましたが、今回ご発表いただきました一般演題の成果を、ぜひ日本放射線看護学会誌に投稿をお願いしたいと思っております。

また、体験型のワークショップでは、最新の技術を活用した空間線量認知システムの構築に取り組まれている成果をご報告いただき、今後の教育などに活かしていけるご発表であったと思います。また、立川市と共催で開催をいたしました市民公開講座『画像診断の進歩と最新の放射線治療～がんの早期発見と最適な治療を目指して～』もオンデマンド配信をいたします。

オンデマンド配信の内容は、以下の通りです。10月16日まで参加登録が可能ですので、多くの皆様にご視聴いただければと思います。

ホームページ <http://conference.wdc-jp.com/rnsj/11/>

《プログラム（オンデマンド配信）》

【会長講演】
【基調講演】
【特別講演】
【教育講演】
【シンポジウム】
【パネルディスカッション】
【一般演題】
【ワークショップ】
【優秀論文賞受賞講演】
【市民公開講座】

2) 日本放射線看護学会第12回学術集会のご案内

日本放射線看護学会第12回学術集会会長
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻
准教授 吉田浩二

第12回学術集会を2023年9月9日(土)、10日(日)に長崎大学医学部記念講堂・良順会館(長崎市坂本1-12-4)で開催いたします。

本学術集会のテーマは「放射線看護の継承と創造～放射線看護専門看護師と描く未来～」としました。

これまで弘前大学、鹿児島大学、長崎大学では放射線看護の専門看護師誕生を目指し、様々な努力を積み重ねてきました。その努力が実を結び、今まさに放射線看護専門看護師が誕生しようとしています。放射線看護専門看護師は、放射線診療の場や地域での放射線利用の場での活躍が期待されていますが、まだまだ発展途上の分野です。これまでの経験とこれから歴史を積み重ね、放射線看護専門看護師とともに看護職の皆様と一緒に創造できる未来を考えることができるような学術集会にしたいとの思いから、このテーマを設定いたしました。

また、昨今のロシア軍におけるウクライナ侵

攻は、ただただ驚き、心が痛むばかりです。原子力発電所の制圧や一般市民への攻撃などあってはならない、全世界が恐れる由々しき事態です。この度、この学術集会を通じて、ここ長崎の地から、平和について、放射線看護について発信できる機会を頂きましたことを大会長として重責に感じております。

このような中で、第12回学術集会のテーマの実現を目指して、様々な議論ができる企画を考え、皆様にとって有意義な学術集会となるように準備してまいります。多くの皆様のご参加を長崎の地で心よりお待ちしております。

【編集後記】

次回発刊は、2023年3月を予定しております。

皆様からのご意見や情報提供、ご要望など、事務局にお気軽にお寄せくださいませ。

広報・渉外委員会

作田裕美、桜井礼子、堀田昇吾、
上野寿子、新井龍